

牛乳乳製品に関する食生活動向調査2021

『 年末年始の生乳廃棄問題に関する意識調査結果から 』

および

『 二次調査結果から 』

2022年3月23日



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

調査目的

新型コロナウイルスの影響により、業務用需要を中心とした牛乳消費の低迷が続いているなか、飲用需要が減り、学校が冬休みに入る年末年始に、乳製品などに加工しきれない生乳が発生する可能性があるといった生乳廃棄問題が、2021年の師走から世間を騒がせました。また、これから春休みの学乳休止期にかけて、全国の乳製品工場の処理能力を超える加工処理生乳の発生が危惧されます。そこで、これらに対する生活者の認識や牛乳乳製品の消費行動を分析するとともに、さらなる牛乳消費拡大に向けての基礎データを取得することを目的として、生活者に対して生乳廃棄問題に対する意識調査を実施しましたので、本調査結果を報告します（一部抜粋）。

さらに、Jミルクにおいて毎年実施している牛乳乳製品に関する食生活動向調査の結果を深掘りして、次年度以降の牛乳乳製品の価値向上への取り組みや、マーケティング戦略の構築と改善を図るための二次調査を実施しましたので、併せて報告します（一部抜粋）。

なお、これらの調査結果の詳細については、業界関係者及び研究者に対して公開してまいりますので、是非、ご活用ください。

2022年3月
一般社団法人 Jミルク

調査手法

インターネットを活用した、消費者パネルに対するアンケート調査

調査時期

- ・ 年末年始の生乳廃棄問題に関する意識調査 : 2022年1月26日(水) ~ 1月30日(日)
- ・ 牛乳乳製品に関する食生活動向調査(二次調査) : 2022年1月27日(木) ~ 1月30日(日)

対象者属性

全国の15歳~70歳代の男性・女性

サンプル数

- ・ 年末年始の生乳廃棄問題に関する意識調査 : 5,000ss
- ・ 牛乳乳製品に関する食生活動向調査(二次調査) : 600ss

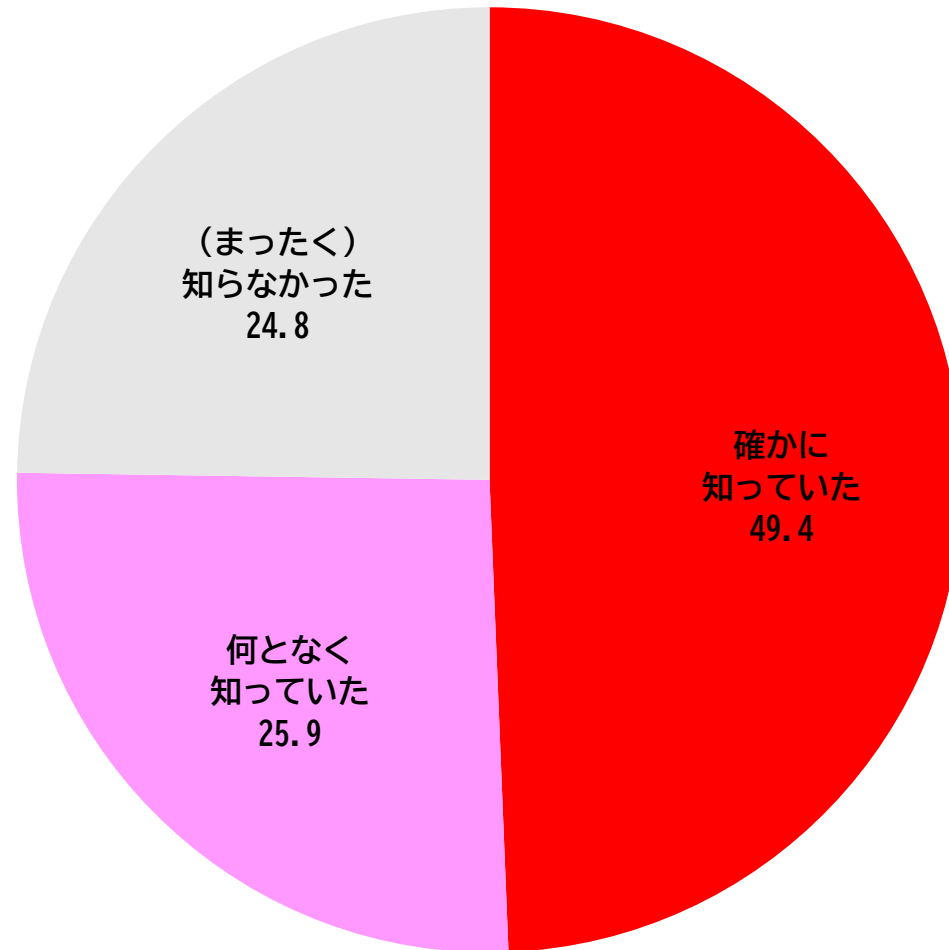
割付

- ・ 年末年始の生乳廃棄問題に関する意識調査 : 2020年国勢調査の人口構成データなどを参考に、性別、年代別、地域別で割付。
- ・ 牛乳乳製品に関する食生活動向調査(二次調査) : 牛乳利用の増減×植物性食品利用の増減の各分類(一次調査結果に基づく)から、性別、年代別で割付。

1. 年末年始の生乳廃棄問題に関する 意識調査結果から



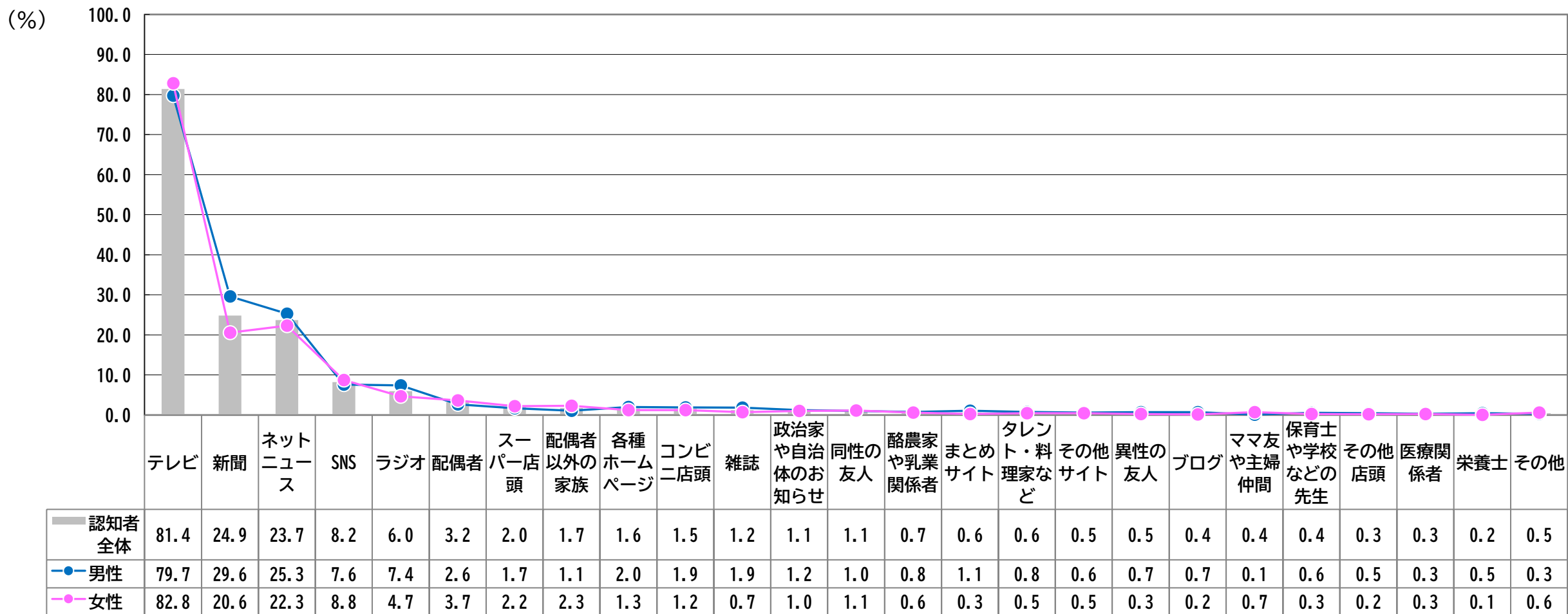
問： 昨年末から今年のはじめにかけて、コロナ禍の影響や給食の中止といった様々な要因から世の中の牛乳利用が減少し、そのため乳牛から絞った生乳が余り、廃棄などで無駄になってしまう恐れがありました。あなたはそのことをどれくらいご存知でしたか。



N=5000

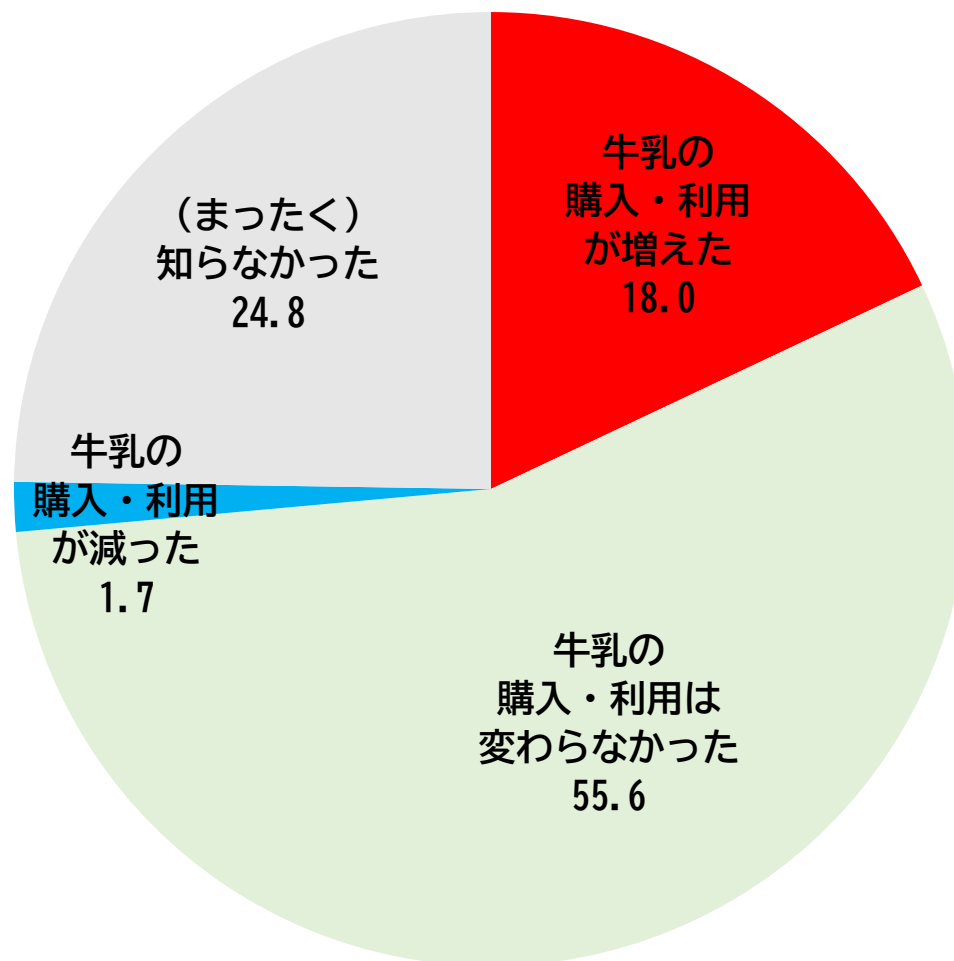
➤ 年末年始の生乳廃棄問題の話題については、生活者の3 / 4が何らかを認知し、1 / 2は確かに認知している。

問：「昨年末から今年のはじめにかけて、コロナ禍の影響や給食の中止といった様々な要因から世の中の牛乳利用が減少し、そのため乳牛から絞った生乳が余り、廃棄などで無駄になってしまう恐れがあった」ということを、あなたはどこから（どこで）知りましたか。



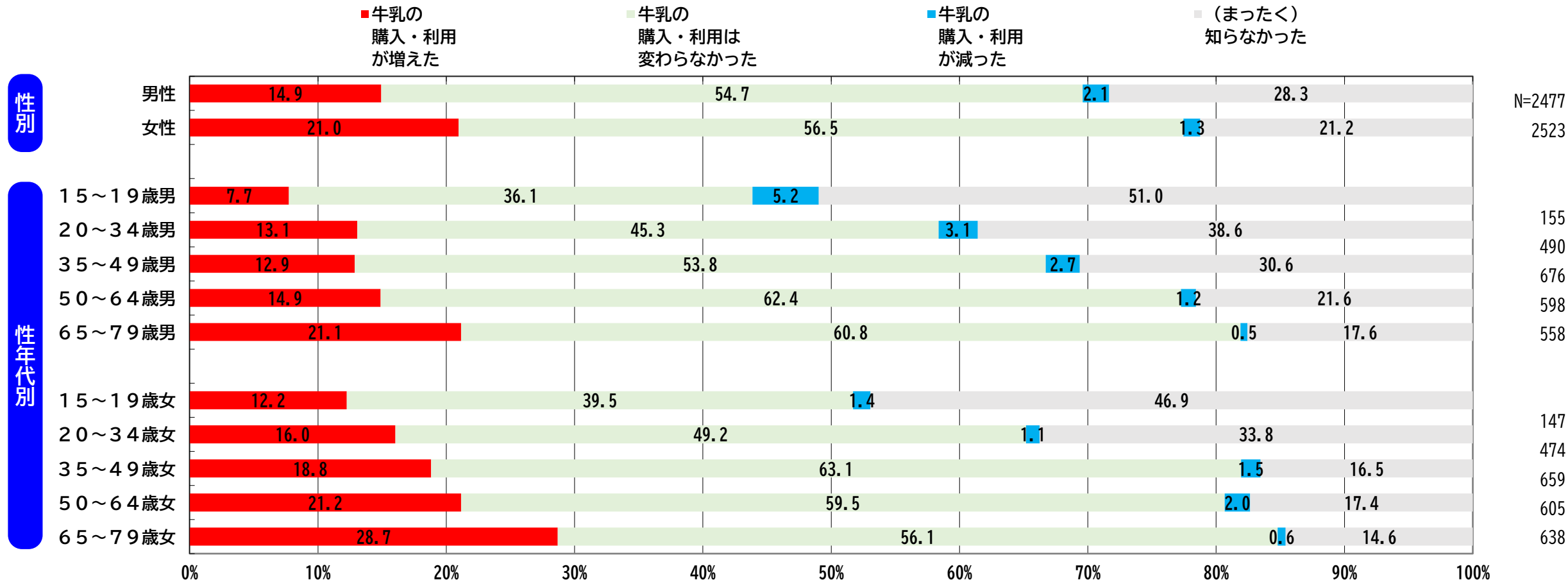
➤ 牛乳の困難に関する情報源はテレビが圧倒的に多い。それに次いで、新聞とネットニュースでの認知が多い。（報道からの認知が効果的ということであるのか？）

問：「昨年末から今年のはじめにかけて、コロナ禍の影響や給食の中止といった様々な要因から世の中の牛乳利用が減少し、そのため乳牛から絞った生乳が余り、廃棄などで無駄になってしまう恐れがあった」ということを知って、あなたご自身（ご家庭）の牛乳の購入・利用は変化しましたか。



➤ 年末年始の生乳廃棄問題の話題を知って、牛乳の購入・利用が増えたという人は、全体の2割弱。

問：「昨年末から今年のはじめにかけて、コロナ禍の影響や給食の中止といった様々な要因から世の中の牛乳利用が減少し、そのため乳牛から絞った生乳が余り、廃棄などで無駄になってしまう恐れがあった」ということを知って、あなたご自身（ご家庭）の牛乳の購入・利用は変化しましたか。



- 牛乳の購入・利用が増えたという人は、男性よりも女性、若年層よりも高齢層において、より多く出現している。
- その中で、男性全体に比べて、男性は65-79歳において購入・利用が増えているが、40代以下ではいずれもその割合は下回っている。また、女性においても、65-79歳で牛乳の購入・利用が増えており、この世代の3割に達する。
- 一方、生乳廃棄問題の話題について知らなかったが多い年齢層は、男女ともに10代であり、この世代の半数に及ぶ。

生乳廃棄問題の話題についての認知後の行動（地域別）

問：「昨年末から今年のはじめにかけて、コロナ禍の影響や給食の中止といった様々な要因から世の中の牛乳利用が減少し、そのため乳牛から絞った生乳が余り、廃棄などで無駄になってしまう恐れがあった」ということを知って、あなたご自身（ご家庭）の牛乳の購入・利用は変化しましたか。

■ 牛乳の購入・利用が増えた
■ 牛乳の購入・利用は変わらなかった
■ 牛乳の購入・利用が減った
■ (まったく) 知らなかった



➤ 牛乳の購入・利用が増えたという人は、北海道において、特に多く出現している。

- ① 生産者への共感、精神性／人助け
- ② 首相の牛乳についての発言への関心（10代）
- ③ SDGsによる食品ロスの削減意識
- ④ 食べ物を捨てることへの抵抗感
- ⑤ 国産保護／自給率意識
- ⑥ 豆乳減らした
- ⑦ あらためて飲みはじめた
- ⑧ 料理で利用（より高齢層）
- ⑨ もともと牛乳が好き
- ⑩ 栄養もカルシウムも取れる
- ⑪ 年末年始で在宅時間が増えたから
- ⑫ 孫と一緒に（高齢者）
- ⑬ 値下げへの関心（スーパー、ローソン、オイシックス、等）
- ⑭ 貴重なものの意識／牛乳は貴重な栄養のかたまり
- ⑮ 学校給食などを通じて子供の栄養に役立っている意識などからの感謝の気持ち

2. 二次調査結果から（一次調査からの深掘り）

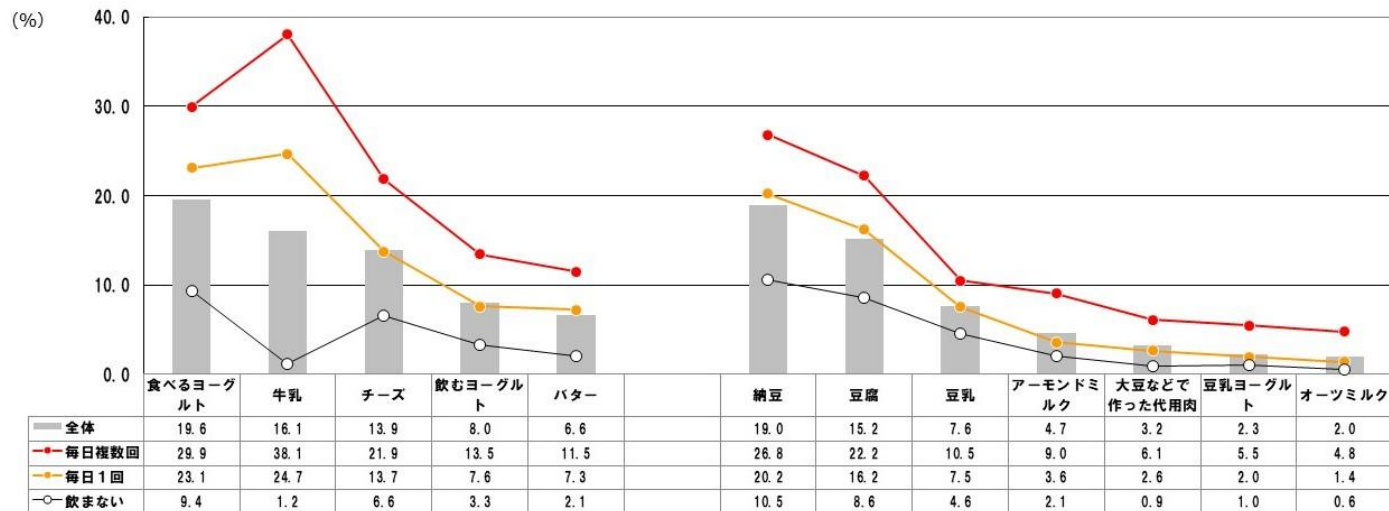
- ① 動物性食品・植物性食品／今後の購入・利用への影響分析



<動物性食品と植物性食品の利用関係と、SDGs・エシカル消費から連想されるキーワードの認知との観点から深掘り>

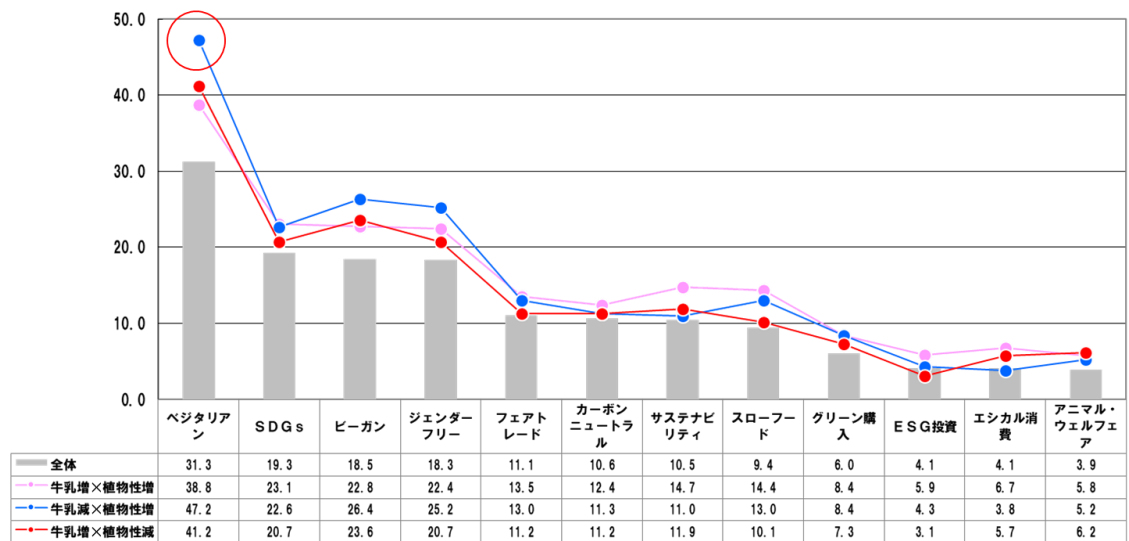
Q：あなたが、食べたり飲んだりする機会・回数が増えてきているものをお知らせください。

A：牛乳類の利用頻度が高くなるほど、牛乳乳製品の全般に利用頻度は高くなる一方、植物性食品（植物性飲料を含む）の利用についても、利用頻度は高くなる傾向がある。牛乳類と植物性食品をバランスよく利用していると考えられる。

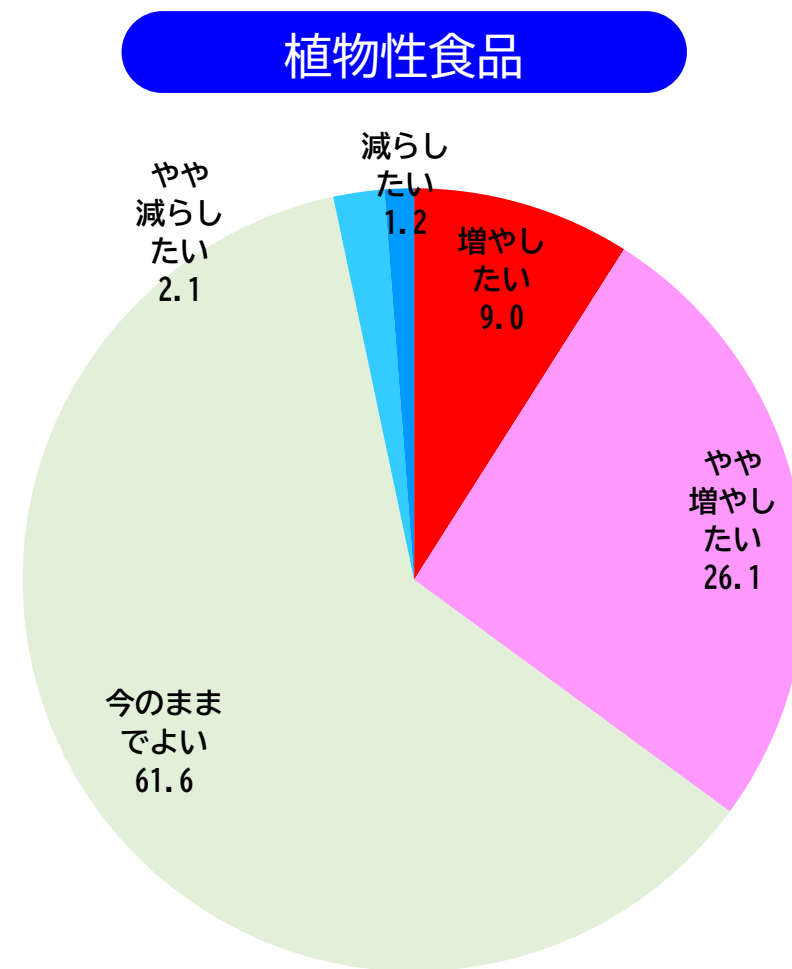
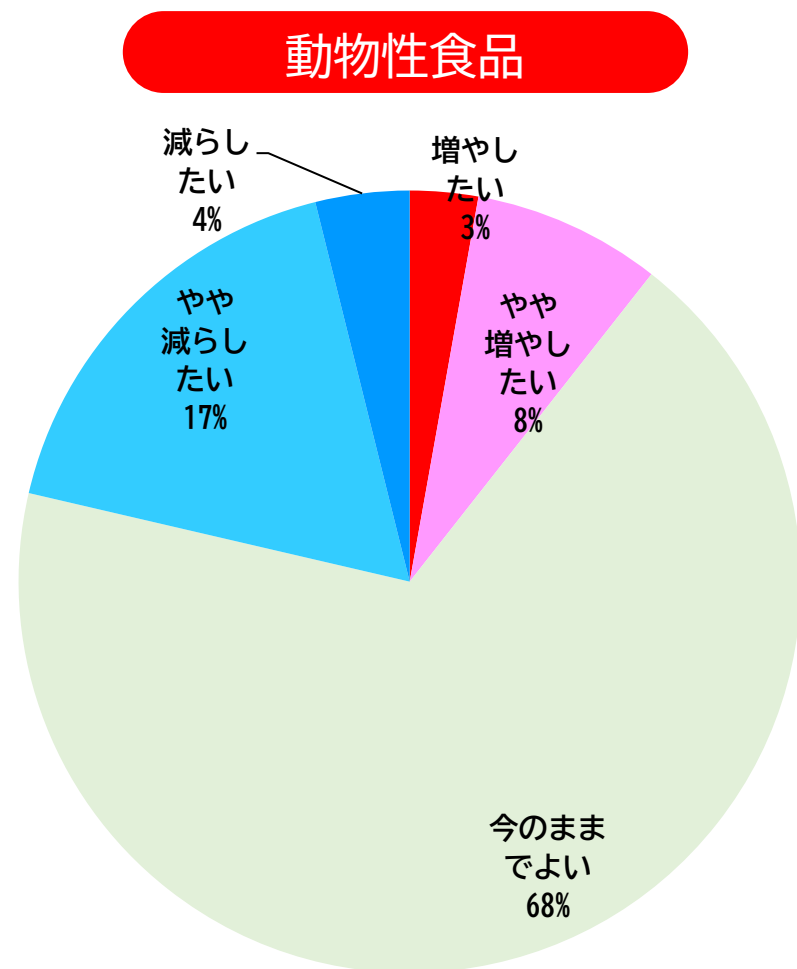


Q：あなたは、SDGs・エシカル消費から連想されるキーワードをどれくらいご存知ですか。（「確かに内容理解」の数値として）

A：牛乳や植物性食品の利用の増減に関わらず、「ベジタリアン」は高い認知を示す。なかでも、牛乳の利用を減少させ、植物性食品の利用を増加させている人の「ベジタリアン」の認知度は特徴的に高い。



問：今現在、あなたは「動物性／植物性」食品の購入・利用についてどう思いますか。



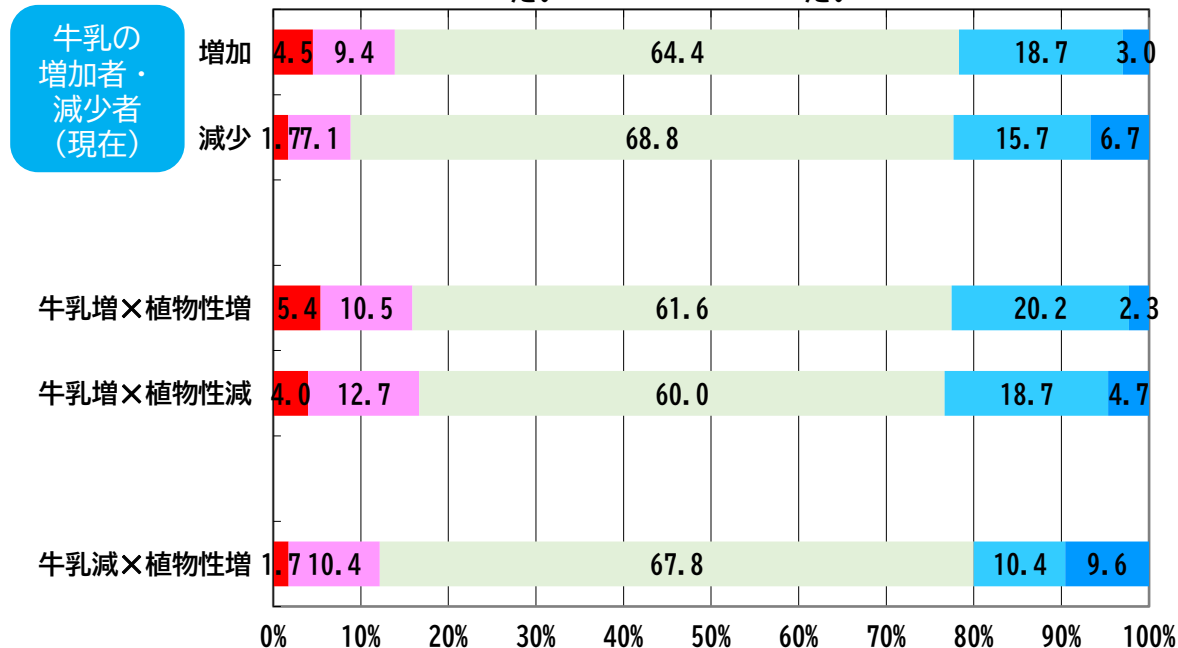
N=3375

- 動物性食品の購入・利用については、7割弱が現状維持である一方、減少の意向は明らかに優位。
- 植物性食品の購入・利用については、6割強が現状維持である一方、増加の意向は明らかに優位。

問：今現在、あなたは「動物性／植物性」食品の購入・利用についてどう思いますか。

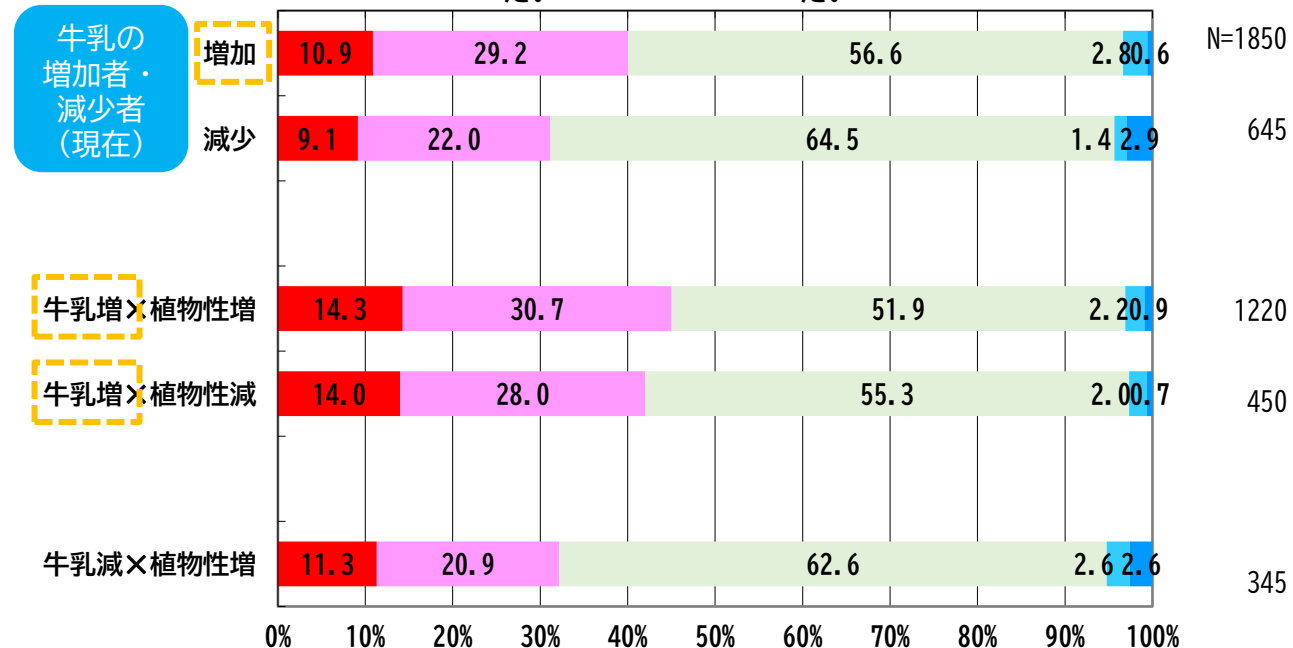
動物性食品

■ 増やしたい ■ やや増やしたい ■ 今のままでよい ■ やや減らしたい ■ 減らしたい



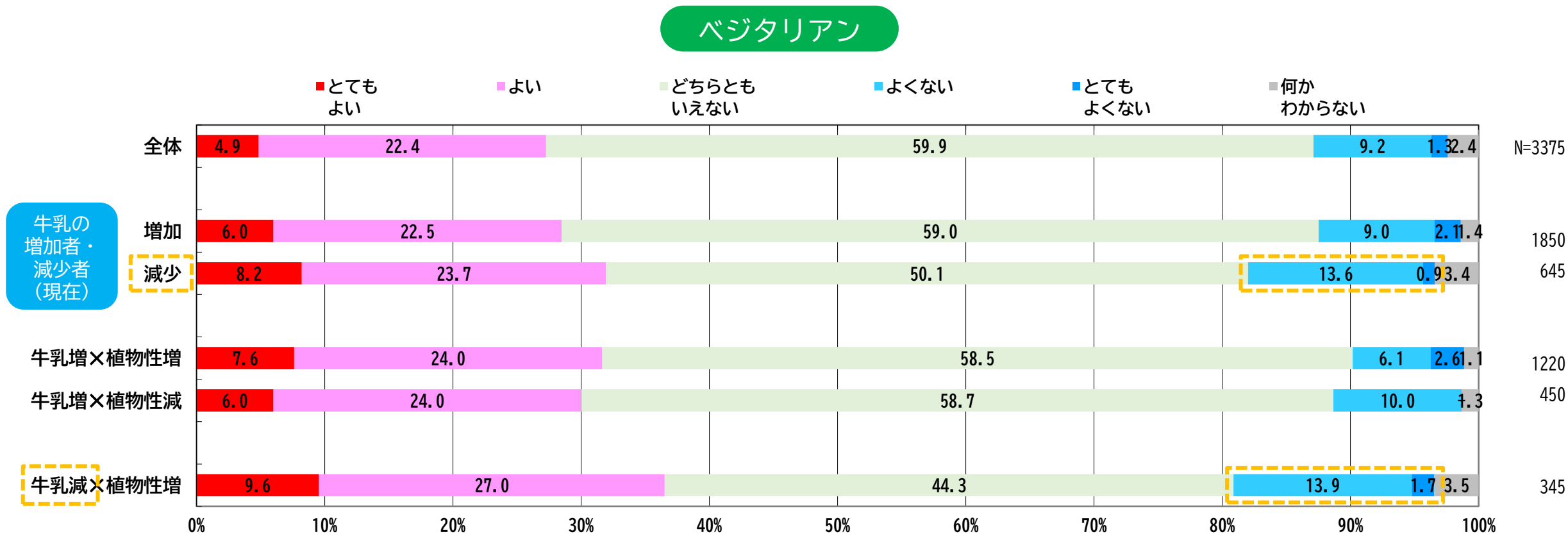
植物性食品

■ 増やしたい ■ やや増やしたい ■ 今のままでよい ■ やや減らしたい ■ 減らしたい



- 動物性食品の購入・利用では、牛乳消費の増減意識によらず、『減らしたい』人は、『増やしたい』人よりも上回っている。
- 一方、植物性食品の購入・利用で『増やしたい』意向は、牛乳利用の『減少者』よりも『増加者』の方が高くなっている。
- 動物性食品と植物性食品の購入・利用に関する意識を自由回答として求めると、牛乳利用の増加者・減少者の区別に関係なく、「健康意識」「ダイエット意識」「加齢意識」「トレンド意識」「SDGs（環境意識）」「動物の殺処分を意識」に基づいて購入・利用するといった意見が目立つ結果となっており、牛乳乳製品の消費においても、これらのキーワードが、今後の購入や利用に影響してくるものと考えられる。

問：あなたは「ベジタリアン」についてどう思いますか。



- ベジタリアンに関する印象は、牛乳の飲用者では共通して（利用の増減に関係なく）、良い印象が優位である。ベジタリアンの認知が高い理由は、牛乳飲用者による肯定的な捉え方が大きく寄与していると考えられる。
- そのなかで、牛乳が減少している人に限って分析してみると、良い印象とともに良くない印象も増加しており、**牛乳の飲用は減らしつつも、植物性食品の摂取に過度に依存することのないよう、個々の体調に合った相応しい栄養バランスへの意識**が、そのような傾向の根底にあるのかもしれない。
- ベジタリアンに関する自由意見で求めると、『牛乳利用を減らし、植物性食品を増加させている人』では、「健康」「痩身」「動物の殺処分への意識」「思想的な賛同」、といった回答が目立つ一方、過度な野菜摂取による健康への影響を危惧する意見も少なくない。

2. 二次調査結果から（一次調査からの深掘り）

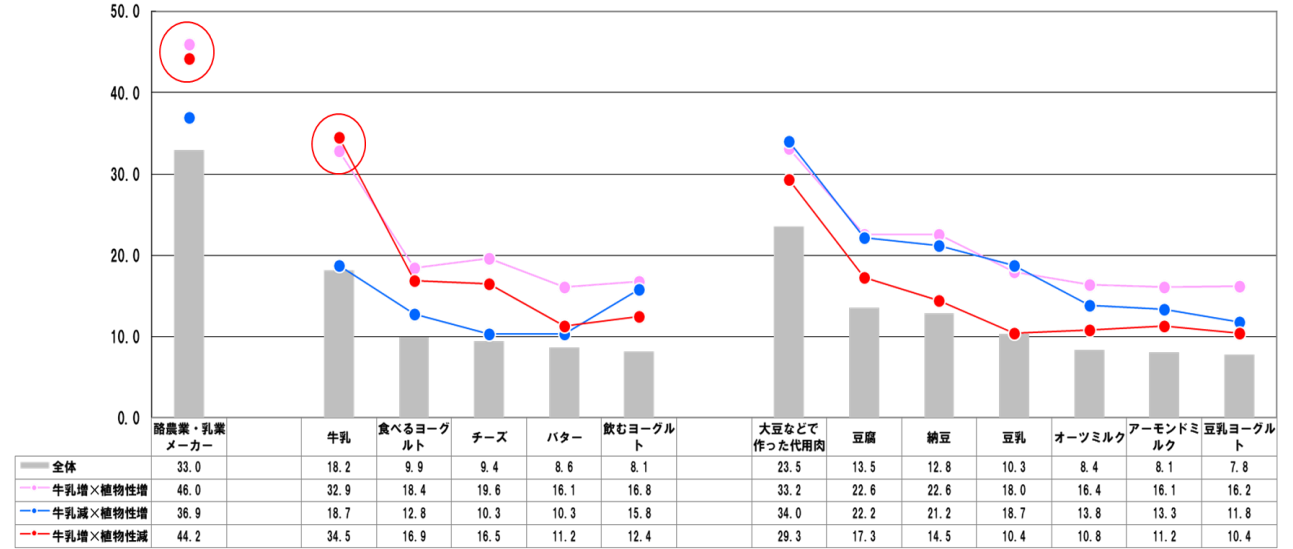
② 酪農乳業が目指すSDGs、エシカル消費への取り組み



<SDGs、エシカル消費に沿っている産業／食品と、酪農乳業が良い影響を与えている取り組みとの観点から深掘り>

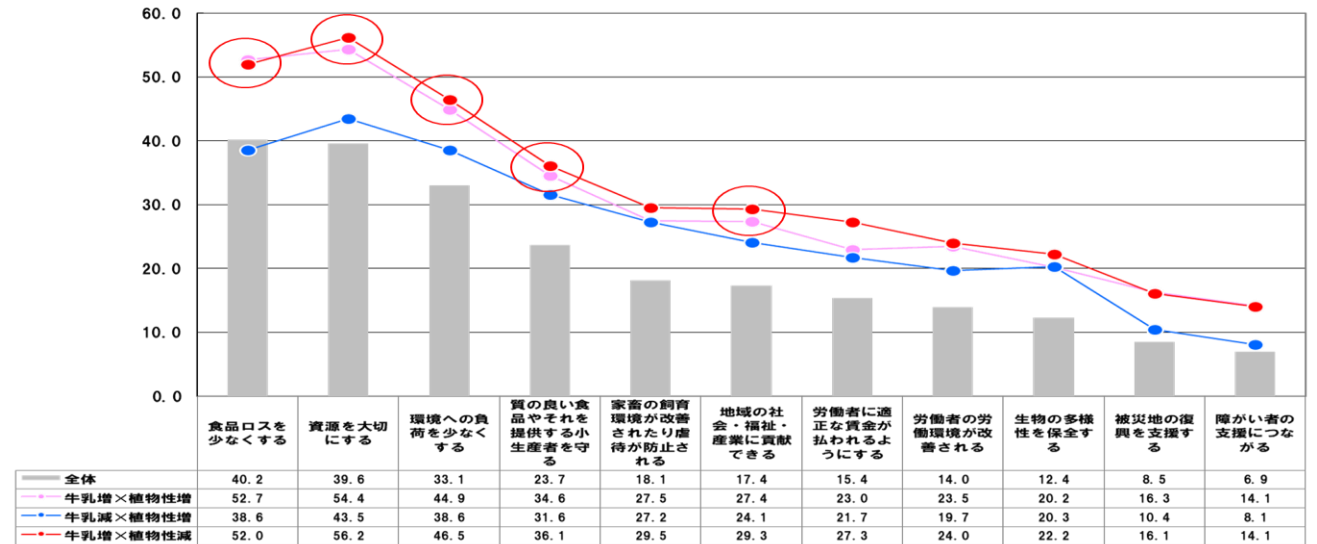
Q：様々な産業・企業／食品・飲料の中から、あなたが「SDGs」や「エシカル消費」に「沿っている」と思うものをお知らせください。

A：酪農業・乳業メーカーは、「沿っている」、また、牛乳乳製品や植物性食品も、「沿っている」の意見が大勢。



Q：列挙した取り組み内容について、「酪農乳業」全般が「良い影響」を与えていると思うものをお知らせください。

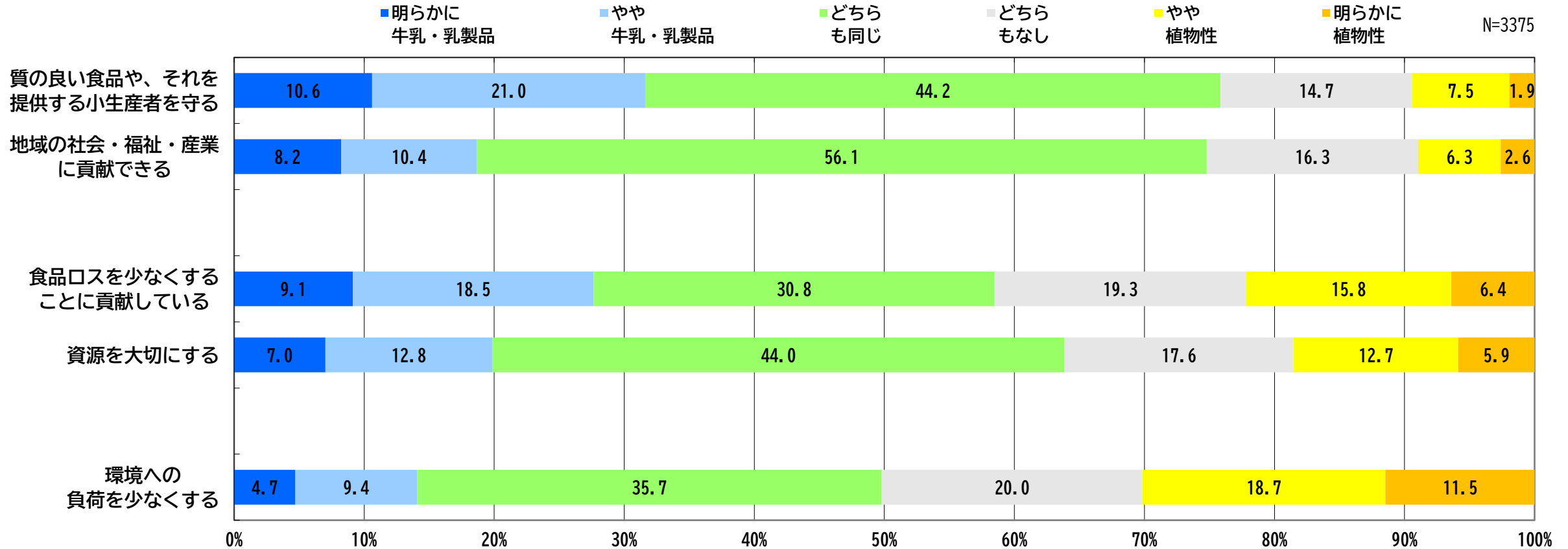
A：「食品ロス削減」「資源の保全」「環境負荷低減」「小生産者の保護」「地域社会への貢献」において、酪農乳業は良い影響を与えているという認識が上位を占める。



問：あなたは下記のAとB、2つの食品グループのどちらにおいて「****」という印象がより強いですか。

A. 牛乳・乳製品（牛乳／ヨーグルト／チーズ／バター）

B. 植物性食品（豆乳／豆乳ヨーグルト／納豆／豆腐／大豆などで作った代用肉／アーモンドミルク／オーツミルク）



- ◆ 牛乳・乳製品が優位な印象： 《質の良い食品、それを提供する小生産者を守る》 《地域の社会・福祉・産業に貢献》
- ◆ 両者が拮抗： 《食品ロスを少なくすることに貢献》 《資源を大切にしている》
- ◆ 植物性食品が優位な印象： 《環境への負荷を少なくする》

『地域の社会・福祉・産業に貢献できる』への意見（自由回答）

【A. 牛乳・乳製品】が優位（牛乳増の方のご意見）

10代女	学生	牧場は観光産業にもなるから	40代女	ブルーカラー	牛乳は、なんだかんだ、何故か学校給食のマストアイテムだし、貢献してるのではないかと思いました
10代女	学生	牛乳の方が全国的に作っている方が多いのかなと思ったから	40代女	ホワイトカラー	地域に密着している感じがする
20代男	学生	牛乳は給食で出ていることもあり、地域の食に貢献していると思うから。	40代女	専業主婦	Bに関しては国産以外もあり、Aは国産のみの印象。やはり国産は自国に貢献しているのでは？
20代女	専業主婦	牛乳のほうが消費があるイメージだから。	40代女	専業主婦	給食に使われている。
20代女	その他	給食とかでもよく出るから	50代男	ホワイトカラー	地産地消だから
20代女	その他	牛乳は給食にもでるので	50代女	インフルエンサー	ほとんど国産だと思うので
30代男	ホワイトカラー	生産まで考えると、大豆よりは、牛乳のほうが、地域社会に貢献すると思う。	60代男	ホワイトカラー	手作り感が強いので
30代女	インフルエンサー	名産品に結びつくイメージがある	60代男	ブルーカラー	社会見学とか積極的に行っている
30代女	インフルエンサー	完全にイメージだけだけど、牛乳の方が社会や産業に貢献していると思う。そう思う根拠はない。	60代男	その他	輸送距離が短そうだから
30代女	その他	生産者をイメージしやすい	60代男	その他	社会貢献活動などを行っている。
40代男	ホワイトカラー	地域の特産は自然に近い加工をしないもののほうが多いから。	60代女	専業主婦	乳製品は国産で社会に貢献してると思う
40代男	ホワイトカラー	酪農家は地域に密着した生活をしているから	60代女	専業主婦	酪農家を守ることに、無くしてしまっただけではいけないと思う。
40代男	インフルエンサー	牛乳のほうが日本で作っているイメージがあるから	60代女	その他	産地直結
40代女	ブルーカラー	動物を育てる為に他の業者も協力が必要になるので雇用の面でも貢献しているとおもう	60代女	その他	子どもたちに牛を見てもらったり、身近に体験できることが多そうだから。
			70代女	その他	北海道は酪農が重要な産業である。応援していきたいと思っている。

『環境への負荷を少なくする』への意見（自由回答）

【B. 植物性食品】が優位（牛乳減×植物性増の方のご意見）

10代女	学生	牛は地球温暖化を促す	50代男	その他	乳牛の排出するガスが問題にもなって居る位環境負荷は大きいから
10代女	学生	大豆が環境に良さそうなイメージだから	50代女	ホワイトカラー	動物性食品より、植物性食品の方が環境に良い印象がある。
20代男	ホワイトカラー	植物性だから	50代女	ブルーカラー	乳製品は日持ちしないので廃棄する量が多い。
20代女	ブルーカラー	植物性の方が自然に優しい気がする	50代女	専業主婦	環境への負荷という事だけで見れば、生産調整できるBになると思う
20代女	インフルエンサー	牛のガスを出すのが多いことで温暖化がすすむと聞いたため。	50代女	専業主婦	時代に適している
20代女	学生	自然なまま食品を使っているイメージがあるから。	50代女	専業主婦	牛のおならの環境破壊の話聞いたことがあります。
30代男	ホワイトカラー	牛のゲップはメタンガスを排出するから	50代女	専業主婦	動物の呼気や排泄物等が、環境に悪影響を与える問題は大きいから。
30代男	ホワイトカラー	原材料の廃棄、ゲップによるメタンガスの増加という2点だけ見ても、明らかである。	60代女	専業主婦	豆は粕も利用できますが、牛乳は鮮度が命なのでその点での苦勞が有ると思います。まだ牛乳に抵抗感がある方も割と多いのは無いでしょうか。豆はそのままでも加工しても食べられます。
30代女	ホワイトカラー	植物性の方が環境には優しい印象。	60代女	専業主婦	牛は二酸化炭素をたくさん出して環境破壊につながるから
30代女	専業主婦	乳牛の生活環境を整えるためや飼育に大量の草が必要になることを考えると、Bの方が環境への負担はなさそう。	60代女	専業主婦	うしのげっぷはメタンが多い。だから大豆のほうが環境にやさしい。
30代女	その他	大豆も水や土地を消費するが、牛を飼育するためには大豆も使われる	60代女	その他	動物よりは植物の方が環境負荷が少ないと思います。CO2の排出量を考えても、植物が勝っていると思います。
40代女	ホワイトカラー	乳牛の環境への負荷についての話題をよく目にするため	70代女	専業主婦	お坊さんの生きかたに賛同するので
40代女	専業主婦	家畜や食用肉の環境破壊が話題になっているから			
40代女	その他	植物性だから			
50代男	ホワイトカラー	牛は二酸化炭素を排出するらしいし			
50代男	ホワイトカラー	植物の方が環境負荷が少ない印象です。			

『食品ロスを少なくすることに貢献している』への意見（自由回答）

【A. 牛乳・乳製品】が優位（牛乳増の方のご意見）

10代男	学生	よく余った牛乳や 賞味期限が近い牛乳を配っているから
20代男	学生	牛乳は消費期限が短く、バターなどで長期保存できる形に変えているから。
20代女	ホワイトカラー	最近給食が減ったりし、牛乳が余ってしまっているというニュースを見たので生活で消費することで減らすことに繋がると思う
20代女	その他	よく食べる方だから
20代女	その他	自分の体質的に大豆アレルギーのため牛乳などの方が多く消費することができる
20代女	その他	最近でいうと乳製品。ローソンでもホットミルクを安く販売するなどしていた。Bはあまり記憶にない
20代女	その他	2021年末くらいに牛乳が大量廃棄になるという内容のニュースがやっていて、そこからコンビニなどあらゆるところでロスを減らそうと取り組んでいたため。
30代男	ホワイトカラー	牛乳やヨーグルトのほうが、身近な存在だと感じる。
30代女	ホワイトカラー	意識して摂取しているから
30代女	専業主婦	SNSなどでよく牛乳大量廃棄のため消費に協力してほしい旨が拡散されているから
30代女	専業主婦	牛乳消費のコマーシャルを見たから
40代女	ホワイトカラー	Aの方が普段食べているものが多いから
40代女	ホワイトカラー	そのまま食べるものよし、料理の食材としても使えるから

40代女	ブルーカラー	牛乳を沢山飲むので、2日で1リットル。納豆は1日1パック
50代男	ホワイトカラー	ナマモノだから
50代男	その他	原料そのものを製品化して料理に還元してすべて消費できている感じがするから。
50代女	インフルエンサー	牛乳あまりが報道されたので
50代女	その他	テレビでやっていたから
60代男	ホワイトカラー	代用品は作る過程でどうしてもロスがでると思う
60代男	ブルーカラー	殆んど、期限内に消費している
60代男	その他	メディアなどの報道
60代女	専業主婦	長持ちするから。
60代女	専業主婦	乳製品の方が、老若男女問わず飲食することができる。
60代女	その他	みんなが食べる機会が多いと思うから
70代男	その他	牛乳はチーズやバターに加工できるので
70代女	専業主婦	Aは生乳さえあれば一貫生産も出来そうだから。
70代女	専業主婦	乳製品の方が生産調整が不可、長期保存にのり向きだと思うのでこちらを積極的に使いたい
70代女	専業主婦	先頃も生乳の生産量に対する問題があったがいろいろな方法で呼びかけなども行われていたことがあったばかりだ

『食品ロスを少なくすることに貢献している』への意見（自由回答）

【B. 植物性食品】が優位（牛乳減×植物性増の方のご意見）

10代女	学生	いろいろなものに変化させられるから。
10代女	学生	色んな食材と混ぜて使える
10代女	学生	豆腐や納豆はよく食べるから
10代女	学生	豆は健康にも地球温暖化にもいい
20代女	ホワイトカラー	再利用している感じがするから
20代女	インフルエンサー	牛乳は日持ちがしないが、常に感染しないように乳しぼりはしなければならぬため、廃棄量が多いイメージ。コロナ下で給食が休みになったことでよりその傾向が強かったのではと思う。
30代男	ホワイトカラー	生乳は製造量をコントロールするのが難しくコロナ禍の中でかなり廃棄しているから。
30代女	専業主婦	豆腐、納豆などの方が多く食事に取り入れることができるので。
30代女	その他	保存期間が長い印象
40代女	専業主婦	保存がききそうなので、賞味期限が長く保てそうだから
40代女	その他	大豆はおからなども食品として利用できるから

50代男	ホワイトカラー	加工できる
50代女	ブルーカラー	乳製品は日持ちしないので廃棄する量が、はんぱでないと聞いたことがある。
50代女	専業主婦	Bの方が生産の調整ができるのでロスは減るのかと思う
50代女	専業主婦	大豆だと色々な商品があるからです。
50代女	専業主婦	日本人の牛乳離れを良く耳にするのでロスも多いと思う
50代女	専業主婦	廃棄の牛乳が多いと聞いたことがある。
50代女	専業主婦	やはり大豆は色々な物に変化出来るから。
60代男	その他	加工できるから
60代女	専業主婦	日本人に向いている食品は多く、今では健康上の問題から、牛乳から豆乳に変えている方も多くなっています。色々な商品が開発されていると思います。海外でも豆腐の消費が多くなりつつあると感じます。お味噌も大事な加工品です。
60代女	専業主婦	大豆を使った大豆ミートが増えているから

【牛乳・乳製品】が優位の認識

- ① 酪農家の存在感
- ② 地域の生活者との様々な交流活動
- ③ 地域産業への貢献
- ④ 年末年始の牛乳消費の様々な呼びかけ
- ⑤ 様々な乳製品への加工
- ⑥ 学校給食での役割
- ⑦ 代替食品の不自然さ

【植物性食品】が優位の認識

- ① 環境にやさしいという認識
- ② 他の食材との相性
- ③ 様々な製品への加工
- ④ 生産量のコントロール
- ⑤ 保存期間の長さ

⇒⇒ 環境負荷低減、食品ロス削減に寄与
↓ ↓
酪農乳業が取り組まなければ
ならない課題でもある・・・



【本調査に関するお問い合わせ先】

一般社団法人 Jミルク 学術調査グループ

東京都千代田区神田駿河台2-1-20 お茶の水ユニオンビル5階

TEL 03-5577-7494



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)